

会 議 要 旨

会 議 名	令和元年度第 2 回 館山市地域公共交通会議
開 催 日	令和元年 1 0 月 9 日 (水) 午後 3 時 ~ 午後 4 時 4 0 分
開 催 場 所	館山市コミュニティセンター 1 階第 1 集会室
出 席 者	[委 員]合計 2 0 名 (欠席 1 0 名) 別紙一覧表のとおり [館山市]合計 5 名 (市長・総合政策部長・企画課長・同副課長・同係員) 上記のほか、館山市地域公共交通網形成計画に係る調査業務を受託した、ランドブレイン株式会社の社員が 1 名出席
公開・非公開の別	公 開
傍 聴 人 数	1 名 (定員 1 0 名)
議 事	【議 事】 (1) 館山市地域公共交通網形成計画に盛り込む施策内容について (協議事項) (2) 南房総・館山地域公共交通活性化協議会について (報告事項) (3) 館山日東バス市内線の廃止申出に係る協議結果について (報告事項) 【その他】 ・事業者からの情報提供等
会 議 内 容	開会 館山市長あいさつ 議事 (1) 館山市地域公共交通網形成計画に盛り込む施策内容について (協議事項) ・事務局から「資料 1」を用い、以下の内容等について説明。施策内容については、今後も検討を重ね、素案を作成していくことについて承認された。 各種調査のニーズ等から、基本方針を 6 つ、そこに紐付いていく施策の方向性を 1 3、具体的な施策を 2 5 設定したことを説明。 2 5 の施策のうち、路線バスの見直しや地域と協働で進める取組など、特に重要と考えられる 9 個の施策内容 (施策 1、5、6、7、9、1 0、1 2、1 3、1 4) について説明。 【質疑・意見等】 (室委員) ・循環バスの運行については、便利で行きやすいところに行けるようになるため良いと考える。 ・一本で目的地まで行くことは不可能。既存バス路線 循環バスを乗り換えて目的地に向かうことで選択肢が広がる。 ・乗継の際の運賃負担軽減策 (乗継割引やフリー乗車券の導入等) や、乗換拠点で時間を潰せるような仕組みを導入してほしい。

(事務局)

- ・循環バスを走らせることになった場合は、乗継割引等負担軽減策を検討する。また、乗換拠点(結節点)では、快適に乗継ができるような環境整備を検討する。

(轟座長)

- ・本日、説明が省略された施策16にある「ゾーン制運賃」についても是非取り組んでほしい。

(鈴木正一委員)

- ・公共交通空白地への乗入等、様々な施策の立案がなされたことは良いと考える。
- ・館山駅東口や西口の整備、東口・西口における路線バスと高速バスの機能分担検討や鏡ヶ浦クリーンセンターにおけるパークアンドライド駐車場の整備等の方向性については、どのように進めていくか難しい部分もあると思うが、館山にどうやって来てもらうか、来た人にどのように回遊してもらうかなどを検討していく必要がある。鏡ヶ浦クリーンセンターについてはどのような状況なのか？
- ・駅の利活用についても、駅にコンビニを入れるなど、寄合の場所として機能させたら良いと考える。
- ・施策全体を通じ、バスの小型化その他、お金のかかる話。バスを何台購入し、どこを通すかなど、しっかり議論する必要がある。

(事務局)

- ・クリーンセンターの空いている敷地をどのように活用するか、市役所内部でもアイデアの募集が行われた段階であり、具体的に何かが動き出すということは直近では出ていない。

(轟座長)

- ・豊房線の見直しやグリーンスローモビリティといった地域内交通の主体をどのように考えるか。

(事務局)

- ・豊房線、グリーンスローモビリティとも、事業者に運行を依頼し、有償とする形態を考えている。地元と協議する中で、「自分たちでやっても良い」という話が出れば、地元で運行をお願いすることも検討していく。

(室委員)

- ・網計画策定に当たっては、まちづくりと一体で考える必要があると思う。今回、図書館が循環バス等の運行ルートから外れているが、図書館は大事だと考えている。図書館を乗換拠点等に移設させたらどうか。
- ・市街地の回遊性向上と「ノーマイカーデー」の取組を組み合わせ実施したらどうか。周辺部に駐車場を設置し、市街地には循環バス等でアクセスするような仕組みを導入すれば、市街地への自動車流入を抑制できると思う。

(事務局)

- ・図書館の移設については、近年他の自治体でも駅に併設させたりする事例が出ているものの、費用がかかる話。貴重なご意見として承りたい。また、市街地への自動車流入抑制については、海外で事例があるのは聞いている。館山でも導入できるか、検討課題とさせていただきたい。

(大和地委員)

- ・那古船形駅の利活用だが、ミニ図書館等にして、歴史や観光に関係する本を置いておけば、市民だけでなく、観光客も待ち時間に本を読んで、地域を周遊してくれることになるのではないかと考える。

(池田委員)

- ・施策10において、「既存路線バスの一部乗入れも考えられるが、路線長が長くなり非効率な運行となるため・・・」とあるが、前回の会議では、洲の崎線を延伸させ、坂井から布沼方面へバスを通すという案も出ていたはず。非効率になるとはどういうことを指すのか。
- ・グリーンスローモビリティとグループタクシーは住み分けを行うのか。

(事務局)

- ・たとえば、館山駅と白浜間を運行している南房州本線は国道410号を走っており、約40分で結んでいるが、犬石や佐野の奥まった集落や布沼、竜岡等に立ち寄りとなると、それだけ所要時間が伸びてしまい、速達性が損なわれてしまう。「非効率な運行」はその点を指している。幹線路線バスを小さな集落まで入れるのではなく、提案したグリーンスローモビリティや城山シャトルカーを活用したバス等と組み合わせて、一番良い形態を検討していきたい。
- ・グリーンスローモビリティの取組とグループタクシー制度の導入は、両立させていくことを考えている。グリーンスローモビリティと路線バスの乗継ではどうしても行けない場所や時間帯が出てくる。そうしたときにはグループタクシー制度を活用してもらいたいと考えている。

(轟座長)

- ・自転車に関する施策があまり見られないが、自転車も重要なラストワンマイル対策の手段の一つである。施策に入れることを検討していただきたい。
- ・資料の作成方法を工夫してほしい。各施策を見ただけでは、どの基本方針に紐付いているかがすぐに分からない。こうした点を改善してほしい。

(2) 南房総・館山地域公共交通活性化協議会について(報告事項)

- ・事務局から「資料2-1~2-4」を用い、以下の内容等について説明した。

設立に至るまでの簡単な経緯。

館山市・南房総市合同の協議会については、9月9日実施予定だった会議が台風15号の影響で中止となったため、現在書面開催を行っていること。

今年度は、南房総市エリアを対象とした調査事業を実施し、来年度に2市合同の計画を策定すること。

事業実施に当たっては、国の「地域公共交通協働トライアル推進事業」を活用する予定であること。

合同協議会の今年度予算についての説明。

(轟座長)

- ・議題1で審議された館山市単独の計画の施策内容と、合同計画の内容の整合性をどのように取るのか。例えば、施策の方向性3「南房総市と一体となった公共交通ネットワークの機能強化」などは、南房総市と関係してくるため、整合

性を図る必要があると思われる。

(事務局)

- ・南房総市と連携し、内容については来年度策定予定の合同計画と整合性が取れるようなものとする。

(3) 館山日東バス市内線の廃止申出に係る協議結果について(報告事項)

- ・事務局から、「資料3」に従い、以下の内容等について説明した。

館山日東バス市内線(なむや・小浜～富浦駅～船形～那古～イオン～館山駅～館山航空隊)廃止申出に至った経緯説明。

千葉県バス対策地域協議会の場において、館山市・南房総市・千葉県・館山日東バス等関係者で協議した結果、「現在受けている国・県からの補助に加え、館山市・南房総市の2市が追加で赤字分を補助することで、当面の間運行を継続する」方針が決定したこと。

ただし、今のまま運行を続けても状況は悪化するばかりと考えられるため、関係者間で協議を行い、増収・増客に向けて路線の見直し等の検討を行うこと。

平野副会長(館山日東バス)からの補足説明。

【質疑・意見等】

(大和地委員)

- ・市内線に関する要望をいくつか。まず、運行回数を増やしてほしい。1時間に1本だと、利用者ニーズに合わないと考えられる。次に、利用者はお年寄りが多いので、料金の支払い方法を簡略化してほしい。ICカードを導入すれば、カードをタッチするだけで支払いができるので便利だと思う。

(事務局)

- ・運行回数増についてはなかなか難しい部分もあると思うが、検討させていただく。
- ・ICカード導入については、事務局としても推進していきたいと考えており、計画の施策にも入れている。とはいえ、ICカードの導入コスト、運用コストは莫大で、すぐに導入できるかどうか不透明なため、ゾーン制運賃の導入もあわせて提案したところ。いずれにせよ、分かりやすく乗りやすい体系にしていきたいと考えている。

(室委員)

- ・補助金拠出に当たり、基準を定めているのか。例えば、利用者数が一定のラインを切ったら補助を見直す、補助金の上限額を決めるなどのルールは定めているのか。
- ・館山駅から宮城の間は、市内線は国・県からの補助が出ているものの、JRバス洲の崎線は補助を受けずに運行しているという状況。速やかに重複区間の見直しを検討していく必要があると考える。

(事務局)

- ・現在、「ルール」は定めていない。仮に補助額上限を決めるなどの措置を導入した場合、残った赤字を誰が負担するのかなど、難しい課題もある。今後の検討課題とさせていただきたい。
- ・館山駅から宮城の重複区間は、説明したとおり、見直しに向けた協議を関係者

間で行っていきたいと考えている。

(川俣委員：池田主査 代理)

- ・今、各委員から発言のあった本数の話や IC カード導入の意見等については、千葉県バス対策地域協議会の事務局を務める県としても、今後の検討課題として承ることとしたい。
- ・市内線は現在イオンに 10 分近くかけて立ち寄っているが、少しでも目的地に早く着きたいというニーズの方が多いのか、病院に乘換無しで行けることが求められているのか等を見極めながら、この路線のあり方を考えていく必要がある。また、IC カードを導入するなら、両替の手間はなくなるので運賃設定は今でも良いが、IC カードは導入コスト、運用コストとも高いので、導入せずにゾーン制運賃等を導入するという考え方もある。同じ費用をかけるなら、高齢者が乗りやすいノンステップバスを導入するほうが先という話もあると思う。バリアフリー化どちらのニーズが大きいかなどを見極めていく必要がある。
- ・今日集まっている地域代表の皆さんには、住民が何を望んでいるかを聞いてもらい、市に報告していただければと思う。また、ニーズの反映、実現にはやはり利用者を増やすことが重要。

(中村委員)

- ・高速バスを利用する際、バスのステップが高いと感ずることがある。
- ・乗りやすいステップのバスや台の設置などがあれば、高速バスも便利に利用でき、高齢者が外出する機会も増えるのではと考えている。

(轟座長)

- ・利用者を増やすための方策として、イオンなどの商業施設と連携するなど、考えていないのか。

(事務局)

- ・特典付与などについて、検討していきたいと考えている。

その他

委員から以下のとおり情報提供があった。

○竜崎委員(ジェイアールバス関東館山支店)

- ・西岬方面に向かう洲の崎線については、小沼から早物に抜ける市道通行止めの影響で、平砂浦ビーチホテル前、西、坂足、小沼の 4 バス停が利用不可となっており、ご不便をかけている。
- ・現在、西岬小学校の児童は伊戸漁港止まりの便で救済しているが、数便を南房パラダイスまで延伸させ、フラワーライン上で乗降してもらうことも検討している。認可申請等を行い、来月から実施できればと考えている。
- ・館山駅から宮城間の市内線・洲の崎線重複区間については、今月の消費増税に伴う運賃改定にあわせ、回数券や定期券の共通利用を始めたが、あまり利用が無い状況である。
- ・房総なのはな号・新宿なのはな号において、災害ボランティアで訪れる方の運賃を片道無料とする措置については、制度開始後、毎日利用がある。現在は 10 月 15 日までとしているが、期間延長も検討している。
- ・金曜夜に運行している「フライデーバス」(館山駅 22 時発休暇村ゆき：東京駅

からの直通便)については、利用者が少ない(平均1名~2名程度)のため、やむを得ず廃止とすることも検討している。

【事務局から】

- ・会議要旨についてはまとまり次第送付する。
- ・次回会議は11月28日開催を予定している。

閉会